

男性膵 Solid-pseudopapillary neoplasm (SPN) の一例

◎中村 純奈¹⁾、西川 明子¹⁾、岸江 知哉¹⁾、小宮 彩加¹⁾、西井 薫¹⁾、蟹井 藍¹⁾、中川 真理子¹⁾、福本 義輝¹⁾
社会福祉法人 恩賜財団 済生会 松阪総合病院¹⁾

【症例】患者は 50 歳代、男性。主訴は他院健診での抗 p53 抗体高値。精査目的の当院 PET-CT にて膵体部に異常集積を指摘された。

【来院時血液検査所見】血算・生化学検査で異常所見なし。IgG4 139mg/dL と高値、DUPAN-2、SPAN-1、エラスターゼは正常。

【US】膵体部に 17.1×10.7mm の辺縁高エコー帯を伴う等～わずかに低エコーを示す腫瘤を認めた。境界は明瞭平滑、内部に石灰化を疑う高エコーと血流シグナルを認めた。尾側膵管の拡張は認めなかった。

【EUS 所見】膵体部に類円形低エコー腫瘤を認め、内部に数ミリ程度の石灰化を疑う高エコーを認めた。

【EUS-FNA 病理所見】類円形核を有する概ね均一な腫瘍細胞の偽乳頭状増殖を認めた。免疫染色にて CD10 陽性、β-Catenin が核に陽性であり SPN と診断された。

【臨床経過】他院にて膵中央切除術施行。術後 7 日目に大膵動脈からの出血を認めコイリングにて止血。術後膵液漏にて入院長期化するが保存的に軽快し術後 45 日目退院。そ

の後再発や転移は認めていない。

【考察】SPN の発生頻度は膵腫瘍のうち 1～2% 程度であり、30～40 歳代の女性に多く男性の発生頻度は約 10% と稀とされ、本邦報告例では平均年齢 29.9±17.2 歳、平均腫瘤径 7.5cm と報告されている。男性 SPN は女性 SPN と比して小さい傾向であるとされており、本症例でも約 2cm と小径であった。また、SPN の腫瘤像は充実部と嚢胞成分が混在し石灰化を伴うものが多いとされるが本症例では内部に石灰化を疑う高エコーを認めたが嚢胞成分は認めなかった。腫瘤内に認められる嚢胞成分は、時間経過とともに腫瘤が増大する過程で発生する出血などを反映するとされており、本症例では腫瘤径が小さく時間的経過が短いためこのような変化がみられなかったと考えられる。男性 SPN は本症例のように小径で内部変化も乏しい症例がみられるため認識が困難である場合も考えられるが、超音波検査における内部高エコー所見を手掛かりにすることで見落としなどを防ぐことが可能と考えられる。

【結語】男性膵 SPN の一例を経験したため報告した。